Pick-Up

南部神楽紀行 外伝

文化財指定受け　継承への決意新たに

うたうようなせりふ、華麗な舞など芸能的要素の強い南部神楽は、古くから地域に愛され、今日まで伝えられてきた。しかし、近年、後継者不足などで芸能の伝承や保持団体の存続が危ぶまれている。

市教委は、今後の保存・伝承の道筋を探るため「南部神楽調査研究事業」を実施。調査結果を踏まえ、重要と判断した8件の南部神楽を市指定無形民俗文化財に指定した。

指定を機に発展が期待される南部神楽

市教育委員会は8月10日、市指定文化財に指定した南部神楽8件に指定書を、芸能を担う8団体に認定書を交付した。

市教委は2014年度と15年度の2カ年にわたり、「南部神楽調査研究チーム」を設置して調査研究を行った。調査員は、大阪府茨木市の追手門学院大学地域創造学部の橋本裕之教授、岩手大学の千葉信胤（のぶたね）客員准教授、市教委の東資子文化財調査研究員の3人。伝承の実態、民俗芸能と地域の関わりなどについて、今年3月に調査結果を報告書にまとめた。指定に当たっては市文化財保護条例、指定基準や選定についてのガイドラインに基づいた。

交付式で小菅正晴教育長は「文化財は郷土の誇り。近年は、保存から活用へと変わりつつある。文化財を地域の資源として活用し、地域を挙げて次代へとつないでほしい」と大きな期待を寄せた。

一関地方に古くから伝わる南部神楽。指定を機にますますの発展が期待される。

Point

市指定候補芸能（南部神楽）選定についてのガイドライン

市教委は「無形民俗文化財の市指定候補芸能（南部神楽）選定についてのガイドライン」を、28年5月に策定した。選定の目的は、各保存会の活動と継承の支援。選定には、以下の4点を満たすことを要件とした。

❶複数の演目を伝承している
❷民俗的な背景を有している
❸地域社会が全体として支援している
❹後継者を育成している

Voice

阿部繁行さん
一関民俗芸能団体協議会事務局長

profile あべ・しげゆき 1951年生まれ。牧澤神楽代表。孫の阿部陽向さん、石川絢音さんも舞い手に加え、継承に力を入れる（写真右が阿部代表）

南部神楽は一関が誇る郷土芸能

市内で活動する他の団体とともに市の文化財指定を受け、大変光栄に感じている。南部神楽が持つ文化的な価値やいろいろな活動が評価され、今後の活動に弾みがつく。各団体とも後継者不足や演目の復活など課題を抱えながら活動しているが、一関が誇る郷土芸能として一層精進していきたい。

新たに市の無形民俗文化財に指定された8神楽

❶南沢神楽（みなみさわかぐら）

佐藤耕三代表（会員16人）／萩荘字南沢

1940年発足。89年以降は休止していたが、99年に地元青年団によって復活を果たした。神社への奉納、各種大会への出演など精力的な活動を続けている。女性の胴取りを活躍させるなど新しい視点も。神楽を行事の中に取り込み、「神楽のある地域」を発信している点が特に評価された。

❷牧澤神楽（まぎさわかぐら）

阿部繁行代表（会員8人）／真柴字鴻ノ巣

1909年創設。85年ころから活動を休止していたが、02年に有志が保存会を発足。再興の一歩を踏み出した。最近は次世代を担う女児も参加するなど家族と仲間たちによって伝承されている。地域の子供、学校や保存会の若い世代に指導していることなど、後継者育成の姿勢も評価された。

❸達古袋神楽（たっこたいかぐら）

小岩恭一代表（会員9人）／萩荘字上要害

弘化年代（1844～1847）に伝承したといわれるが、詳細は不明。1872年以降の継承は確認されている。地元の八幡神社の例祭での奉納は、各地区をみこしに供奉（ぐぶ）してまわる。南部神楽特有の演目を多数継承。年間を通して数多くの出演に応えるなど当地方の南部神楽の普及に努めている。

❹蓬田神楽（よもぎだかぐら）

伊藤一代表（会員9人）／舞川字竜ケ沢

1892年、蓬田一族の氏神である天満宮に奉納するために創設したといわれている。悪霊を踏みしめる所作などを大切にしている。奉納神楽に由来するが、若者の加入によって地域の神楽として継承されている。胴取りの引継ぎや演目の継承を計画的に行うなど、伝承に取り組む姿勢も評価された。

❺富沢神楽（とみざわかぐら）

佐藤徹代表（会員10人）／弥栄字運南田

創設は1887年頃。数度の休止を経て1975年、弥栄地域の全世帯に呼び掛けて後援会を発足。寄附を集めて衣装などをそろえた。以来、地域の行事や祭礼で上演している。なりわいと結びついた蚕養神社での奉納は、地域の特色を表している。保存会は学校への指導や会員の勧誘を行い、継承に努めている。

❻本郷神楽（ほんごうかぐら）

佐藤賢吉代表（会員11人）／藤沢町藤沢字八沢

保存会の資料によると、1922年に葉山神社の「代々神楽」として奉納する「親楽会」が結成された。伝承されてきたものを変えないように努めている。月数回の練習で、上演が少なくなった神舞などの復演に取り組んでいるほか、藤沢町子ども郷土芸能発表会に出演する児童に指導を行っている。

❼増沢神楽（ますざわかぐら）

菅原武徳代表（会員11人）／藤沢町増沢字畑沢

1909年、八沢地区の総社である立石神社の奉納神楽として創始。67年、増沢地区の半数に当たる約50世帯が協力して、増沢神楽保存会を発足した。地区の神楽として定期的に練習を行っている。新沼小の児童が運動会で披露する鶏舞の指導を行うなど、地域での継承にも積極的に取り組んでいる。

❽下大籠南部神楽（しもおおかごなんぶかぐら）

高橋義男代表（会員7人）／藤沢町大籠字奈良原

1933年から現在まで絶え間なく継承されている。神明社例祭奉納後の上演会は、地域住民が楽しむ会として定着。牛若丸の物語で主役に抜擢するなど、子供たちを主体的に関わらせていることも評価された。東日本大震災で被災した宮城県石巻市の大室南部神楽に舞台の貸し出しなどの支援も行っている。